沖縄キリスト教学院大学
沖縄キリスト教短期大学

学報 第57号

2011年3月8日発行
沖縄県西原町字翁長777
☎(098)946-4161 FAX(098)946-1241
編集・発行
沖縄キリスト教学院企画推進課
URL http://www.ocjc.ac.jp

記事内容

★理事長・学長メッセージ……2
★沖縄キリスト教短期大学
第三者評価「適格」認定……2
★各学科の取組み
英語コミュニケーション学科……3
大学院……3
沖縄キリスト教短期大学・沖縄キリスト教学院大学共催…4
英語科……4
保育科……5
総合教育系……6
★研究助成費獲得による研究活動……7
★三つ星☆オープンキャンパス……7
★行事……8～9
★宗教部＆沖縄キリスト教平和研究所……10
★国際平和文化交流センター……11
★ONE LOVE活動……12
★図書館……12
★就職関連……13
★教員・在学生・卒業生の活躍
教員編……13
在学生編……14～15
卒業生編……15
★新任教職員メッセージ……16
★退職教職員メッセージ……17～18
★2010年度人事一覧……18
★同窓会情報……19
★寄付感謝報告……19
★2011年度前期公開講座……20
★2009年度決算報告……20
★編集後記……20

『今、学院に求められていること』

学校法人　沖縄キリスト教学院
理事長　神山　繁實

今年３月、第 53 回短期大学卒業生、第４回学院大学卒業生、第２回大学院修士課程の卒業生が、社会に羽ばたこうとしている。今年も不況が続き、卒業生は就職氷河期の荒波にさらされている。将来の就職状況に合わせた学校選びと学部選びが進学の決め手になっている感がする。特に、本学院の四大の教育の特質が外から見え難くなっていることが、本学への応募者減少の大きな原因になっているようだ。本学院に対して、かつての「キリ短」のブランド力がなくなっているという指摘をよく受ける。この指摘を真摯に受け止め、建学の精神とリベラル・アーツ教育と日英語のコミュニケーション能力を高める教育実践が今こそ強く求められている。保育科についても、管理職についている本学の卒業生からの期待は、人間としての成熟度と共に、資質の高い幼児教育者を送り出して欲しいとの強い要望がある。学内の教育実践と共に、学外における学生たちの活動や、教職員の学外活動等の現状とその成果を広く社会に知ってもらう広報活動が求められている。本学院のホームページが充実されつつあることは、社会の期待に沿うことになろう。

学報第 54 号（2008 年度）「学長退任にあたって」（神山繁實）と学報 56 号（2010 年度）「退職に際して」を寄稿された仲地弘善先生のメッセージを併読すると、問題点が明らかになる。建学の精神に基づく教育目的、カリキュラムの整備、教育実践が、設置の趣旨に沿って実施される必要がある。個々の教員、事務職員は、問題点を的確に把握していると思われるので、力を結集して一つの目的に向って前進して問題点を克服できる。今、本学院は、卒業生が誇れる大学、又、高校生・社会人に是非、本学で学びたいと思わしめる充実した教育を提供する学院になることによって、本来のキリスト教学校としての使命を果たすことができる。本学院を創設し、支えてこられた教職・事務職員の諸先輩方と社会の皆さんの期待を裏切らないよう建学の精神に基づき、教育事業を共に推進して行きたい。

最後に、保育系学部設置の委員会が昨年３月から方向性を定めるワークショップを実施してきたが、本年、４月から設置室及び関係部署に必要な人材を配置することになっている。卒業生及び関係者の上に神の祝福を祈る次第である。

Becoming a Person You Can Be Proud of

沖縄キリスト教学院大学
沖縄キリスト教短期大学
学長　Randolph H.Thrasher

Each one of us has, or should have, a purpose in our life. I believe that each of our students has a dream of what he or she wishes to become and what he or she hopes to accomplish in the years that lie ahead. College is a time for students to think about the job they would like to have or the profession that they would like to follow. It is also the time to make friendships; many of which wll last a lifetime. This much is true of the students of any college, but this college gives our students an additional opportunity. We urge our students to think deeply about the kind of person they want to be and to consider committing themselves to work not just for themselves but also for the good of their fellow human beings. This can be seen in our commitment to teach students to become peacemakers. Strife comes when people think only of themselves or their group or their country. If we follow Jesus' teaching to love our neighbor as we love ourselves, strife caused by selfishness cannot occur. And if we understand His story of the Good Samaritan, we know that our neighbors also include the people we have most difficulty getting along with. Living in peace with all people is a very difficult task and we often fail to live in such a way, but this is the desire we try to implant in each of our students and the goal we hope that they will set for themselves.

誇りを持てる自分になるために

私たちひとりひとりは、その人生において目標を持って生きていくべきです。どのような人間になりたいと願い、そして今後待ち受けている人生の中でどのようなことを成し遂げたいと希望しているのか、この学校の学生皆がそんな夢を持っていると私は信じています。

大学時代というのは学生にとってどのような仕事に就くか、またはどのような専門性を追求していくかについて考えを巡らせる時期です。そしてまた友情を育む時期でもあります。多くの場合は一生続くものとなります。ここまではどこの大学の学生にもあてはまるでしょう。しかしここは学生に更なる機会を与える大学です。

自分がどのような人間なのかを深く考察することや、自分のためだけでなく仲間のために善いと思われることに積極的に関わることを熟考するのを私達はしきりに促します。これは学生を“ピースメーカー（平和を創り出す者）”となるべく教育するという我々の建学の精神にも謳われています。

争いというものは、人が自分の事だけ、または自分のグループ、自分の国の事だけ考える時に生じます。もし我々がキリストの「汝を愛するが如く汝の隣人を愛せよ」という教えを実践していれば、自己本位から生じる争いは起こりえないでしょう。そして彼の「善きサマリア人のたとえ」を理解すれば、隣人というのは折り合っていくのがとても困難な人々をも含むのだということを知るでしょう。

全ての人と平和に暮らすというのは大変難しい課題で、我々はしばしばそのような生き方から逸れてしまいますが、この難しい課題こそ個々の学生にしっかりと植え付けたいと我々が強く望むものであり、学生が自らに課してほしいと希望する目標でもあるのです。

沖縄キリスト教短期大学　第三者評価「適格」認定

沖縄キリスト教短期大学は、財団法人短期大学基準協会による2009年度第三者評価の結果、適格と認定されました。

沖縄キリスト教短期大学の「2009年度自己点検・評価報告書」及び「機関別評価結果」は、本学院ホームページ（http://www.ocjc.ac.jp）に掲載されています。

Japan Association for College Accreditation
JACA Accredited College
ACCREDITED 2009

学報第57号（2011年3月8日）

英語コミュニケーション学科

第二回　５大学連携の金融講義

本学と沖縄大学、沖縄国際大学、名桜大学、琉球大学の５大学が連携した講義「金融理論と実務と基礎」が 10 月９日より開催されました。

本講義は 15 コマで構成され、各大学の教員と銀行・証券会社の実務担当者が実践的で多様な授業を展開するものです。本学からは人文学部の高崎教授が担当しました。今回の参加者は各大学からの 25 名に加え、聴講生として本学より４名が参加しました。

学Ｐ沖縄リーグ

沖縄ファミリーマート主催の「学Ｐ沖縄リーグ 2010」の弁当部門に高崎ゼミの学生たち（代表野田亜季）が参加し、ベストチャレンジ賞を受賞しました。今回考案したのはヘルスケアーに着目した「にんにく系女子飯」でした。

リーグ期間中は、商品開発、CM 作成、店頭での販売などの職務を担い、社員と同じ目線で就業体験をしました。

国連大学グローバルセミナー

英語コミュニケーション学科　担当　山里惠子

討論の様子

根間朝子さん（前列左）

国連大学は、日本で学ぶ全大学生、院生（外国からの留学生を含む）が対象となった宿泊セミナーを毎年開催している。世界で起る様々な問題を著名な方々の講演・講義（日本語、英語）を聞き、討論しあう学びの場である。2010 年度は、湘南で開催され、本学から四年次の根間朝子さんが参加した。セミナーのテーマが「持続可能な地球社会を目指して」となっており、根間さんは一つの問題提起をした。「全ての人の生活が私たち先進国と同じ基準になった時，本当に地球の持続性は持ちこたえられるか。」このように、問題が提起されると、異文化を背負った同年代の者同士が、対等に討論する。理解や学びの取り組みにギャップがあり、討論の場が騒然となることもある。それを乗り越え、学びの仕上げとしてのプレゼンテーションが行われる。このファイナル・ステージまでたどり着くと、参加者は、お互いをよりよく理解するようになっている。これは正に、国際理解教育のモデルといえる。本学の多くの学生が、このセミナーに関心を寄せて欲しい。

大　学　院

2010年度　沖縄キリスト教学院大学大学院講演会

2011 年２月 12 日（土）15：00 より、本学の SHALOM 会館１－１教室において、2010 年度沖縄キリスト教学院大学大学院講演会が開催されました。今回は第３回目でありますが、海外から講師をお招きするのは初めてです。今回の講演には、韓国の国立ソウル教育大学の教授であり、韓国の小学校における英語教育の第一人者である WonKey LEE 博士をお迎えして、「韓国の社会政治的情勢と英語教育政策」との演題で講演していただきました。

パワーポイントを使った説明で、大変わかりやすい講義でした。なお、この講演には、山里先生と大学院生が一緒に同時通訳を行いました。

学外からは小・中・高校教員、大学院生、社会人を含む 36 名が参加し、韓国の歴史や国の言語政策、そして英語教育の現状と将来の展望まで、多くのことを学ぶことができました。講演後は、たくさんの質問があり、LEE 先生は丁寧にお答えになりました。

講演の後は、食堂（ユニオン）に会場を移し、懇親会を開きました。教員と大学院生たちは、LEE 先生を囲み、韓国と日本の英語教育について熱心に意見を交換しました。

沖縄キリスト教短期大学・沖縄キリスト教学院大学共催

「第 30 回 学内英語弁論大会」 11 月 4 日（木）

このコンテストは、英語力の向上と、実社会において英語の活用率を意識的に上げることを目的としたプログラムです。スピーチコンテストを進行する際、発表者の紹介などを、ヘルパーとして募った学生自らが行なうなど、公共の場での経験を積ませることにより、英語の活用範囲を広げながら、英語を使う能力を身につけさせるといった工夫が取られています。結果は以下の通りです。

第1位　英語科1年　松田　夏希
An Ordinary Girl Who Use to Ignore Life
第2位　英語コミュニケーション学科3年　佐野　祥子
Learning the Way of Kounosuke Matsushita's Life
第3位　英語科2年　仲宗根　朝子
Girls, Leave Japan!!!!

入賞者のみなさんおめでとうございます

英　語　科

入学前学習支援を行ってます

英語科では、"Hit the ground running"（走りながら着陸しよう）のコンセプトのもと、入学前学習支援を行っています。短大の二年間の最初から全力疾走できるようになることを目指し、目的の大きな柱を、①入学後の本格的な学習に備えるための学びのストレッチ、②「キリ短英語科の学生」になる自意識と帰属意識の高揚、③本学の成り立ちに関する学習、の３点に掲げています。

今年度の第１回目は 10 月 23 日（土）にＡＯ入試合格者を対象に開催し、学長挨拶や、教員の自己紹介、Ice-breaking activity、先輩（２年次）からのアドバイス、オーラルイングリッシュの体験授業といったラインアップに加えて、柳田正豪先生による講話『大学で学ぶとは？』を英語で行いました。学生にとっては刺激的だったのではないでしょうか。また、総合教育系主任の青野和彦先生からも本学の成り立ちに関する学習をする意義についての重要な講話と関連課題を頂きました。

第２回目は 12 月 18 日（土）にＡＯ入試合格者と推薦入試合格者を対象として実施しました。第一回同様のプログラムに加え『キリ短英語科で学ぶということ』について学科長から講話を行いました。また、英語科からの課題（Graded Readers の中の１冊を読んで感銘を受けた箇所に関して感想文を書く）を与えました。この課題は、短いストーリーでも英語で読み通す体験を通じて英語学習の面白さに目覚め、今後の学習へと意欲をつなげてもらう目的を持っています。（本学の図書館には各種の Graded Readers が揃っているので、１冊読んでおけば入学後、次の１冊へと手が伸びることも狙いにしました。）

残る第３回目は、一般入試合格者を加え、履修オリエンテーションを中心とした内容と専門科目のプレースメントテストを予定しています。

入学前支援学習の様子

コミュニケーションツールとしての英語

今や、英語ができてすごいという時代は過去であり、英語はグローバルな社会で活躍する為のツールであるという認識が広まっています。それを裏付けるように、英語をコミュニケーションとして使用する日本企業が増えてきているのも事実です。英語運用能力が発揮されるのは TOEIC550 点からだといわれていますが、これまで本短大学生の 550 点以上取得者は、学生全体の２割を占め、その数は徐々に増加しております。960 点を皮切りに、900 点、そして多数の 800 点台を排出してきました。効果的に TOEIC の点数を上げるには、TOEIC テストの対策だけでは不十分です。Input と Output を兼ねたオーラル・イングリッシュや、文法・講読等といった読解力を養うクラスを履修することで、英語総合力を向上させ相乗効果を高めていきます。ぜひ高得点を目指して勉学に励んでください。

保　育　科

保育科主要日録（2010年2月～2011年1月）

2010.2.1（月）	大山伸子教授に全国保育士養成協議会会員校教職員表彰
2010.2.9（火）	チャペルにて音楽Ⅲ受講生ミニコンサート　出演者　学生16名　教員4名
2010.2.12（金）～3.26（金）	施設実習Ⅰ（80時間）（23施設、1年次96名）
2010.2.15（月）～2.26（金）	施設実習Ⅱ（80時間）（4施設、2年次4名）
2010.2.25（木）～3.24（水）	普通救命救急講習（99名）
2010.3.15（月）	卒業式　卒業生110名　保育士資格取得者107名　幼稚園教諭2種免許取得者109名　社会福祉主事任用資格取得者110名
2010.3.18（木）	支援を必要とする学生に関する連絡会　関係教員（非常勤含む）、学生課、教務課27名
2010.3.29（月）	AO入試合格者個人課題発表会　発表者30名
2010.4.1（木）	入学式　新入生111名　新保育科長　川西康裕教授　復職　喜舎場勤子准教授
2010.4.5（月）	保育科ワークショップ「2009反省①認証評価②教職課程認定の課題③厚労省監査」
2010.4.7（水）	沖縄県福祉保健部長発学長宛「指定保育士養成施設に関する通知について」厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課保育係からの平成22年3月24日発表保育士養成課程等検討会「保育士養成課程等の改正について（中間まとめ）」伝達※これにより2011年度入学生より新カリキュラムに移行　6.3（木）学科会議で検討開始　8.17（火）保育科ワークショップで集中審議
2010.4.17（土）	全国保育士養成協議会九州ブロック協議会総会　理事に山城眞紀子教授再任
2010.5.1（土）	保育士就職模擬試験　2年次中心に39名受験　2011.1.8（土）1年次38名受験
2010.5.31（月）～6.11（金）	保育実習Ⅰ（80時間）（66園、2年次99名）
2010.6.13（月）～6.26（土）	保育実習Ⅱ（80時間）（66園、2年次98名）
2010.7.2（金）～7.3（土）	リザンシーパークホテル谷茶ベイ　全国保育士養成協議会九州ブロックセミナー沖縄大会「沖縄からの発信！変革の時代に求められる保育士養成━“協働”の視点から考える━～すりてぃ語らな～」参加者106名　保育科全教員8名参加　神山繁實理事長挨拶
2010.8.2（月）～5（木）	1年次水泳実習　113名（2年次生含む）
2010.8.5（木）～7（土）	教員免許状更新講習兼保育科公開講座　8.5（木）大城りえ准教授「子どもの発達理解」　参加者36名　8.6（金）山城眞紀子教授、照屋建太准教授「子どものからだと自然」30名　8.7（土）喜舎場勤子准教授、赤嶺優子准教授「就学前教育・保育の動向」　27名
2010.8.9（月）～9.17（金）	1年次保育ボランティア体験（3日間を課し、実際は2～10日間）（保育所56園、学童クラブ、児童館11か所）参加者112名
2010.8.10（火）	沖縄北部自然体験学習（1年次23名）　8.12（木）～13（金）　（1年次19名）
2010.8.30（月）～9.6（月）	フィリピン研修（海外幼児教育研修）1年次7名参加
2010.9.2（木）	学科会議　新カリキュラム決定（教授会議決2010.9.9、理事会議決2010.9.29）
2010.9.2（木）～10.8（金）	幼稚園教育実習（120時間）（75園、2年次97名）
2010.9.8（水）～17（金）	ネパール研修（海外幼児教育研修）1年次14名参加
2010.9.9（木）	支援を必要とする学生に関する連絡会　関係教員（非常勤含む）、学生課、教務課26名
2010.9.29（水）	日本保育協会沖縄県支部との連絡会　同支部10名、本学12名
2010.10.20（水）	「保育士養成教育課程学則変更申請書」完成送付（教務課）沖縄県九州厚生局宛
2010.10.22（金）	山城眞紀子教授に日本私立短期大学教育功労者表彰
2010.10.24（土）	2010年度第1回ワイワイプラザinキリ短（1・2年次合同Dクラス）「ハローキッズハローウィン」約300名　11.27（土）第２回（Ｃクラス）「みんなでおいでよ！ワイワイランド」約180 名　12.18（土）第3回（Ｂクラス）「冬だよ！全員集合！！１・２・サンタ祭」約230名
2011.1.22（土）	第4回（Ａクラス）「ちびっこ探検隊HappyワイワイNew Year」325名
2011.1.14（金）	沖縄県私立保育園連盟との連絡会　同連盟8名、本学10名
2011.1	『2010年度　保育科2年次　実習レポート集　第35号』刊行
2010年度退学者0名　退学見込1年次1名　休学者1年次1名　2年次3名　休学見込1年次1名	

総合教育系

チャレンジとしての「1日平和研修ツアー」

総合教育系主任　青野　和彦

総合教育系では数年前から、本学の建学の経緯と理念を入学者に理解して頂くために、金城重明先生著『集団自決を心に刻んで』の感想文作成を「入学前教育」の課題としてきました。また「キリスト教学」や「表現技法」をはじめ、いくつかの講義でも建学の理念や沖縄戦と平和をテーマとして扱ってきました。「入学前教育と開設科目を連動させたこの教育方法をさらに展開できないだろうか」。それを模索する過程で着想したのが、このフィールド研修です。

第1回目の研修は昨年8月10日(火)に行われ、学生、教職員計16名の参加がありました。

今回、沖縄キリスト教センターの又吉京子氏がガイドとして戦跡に関する実に豊富な情報を参加者に提供して下さいました。また、嘉数高台→南風原文化センター→糸数壕→国吉集落→白梅の塔→魂魄の塔→米須海岸→韓国人慰霊塔・平和の礎、をコースとしました。

「なぜかくも広大な米軍基地が現在もなお沖縄に存在するのか」。これが今回の研修のテーマであり、私達はそれを念頭に置きつつ、一つひとつの戦跡を訪ねました。研修の終わり頃、参加した1人の学生が歩きながら私に感想を語ってくれました。「祖父母があの戦争を生き抜いたからこそ、今の自分の命があります」。それはとても重みのある言葉でした。基地の存在は過去の戦争に起因しており、負の遺産である。確かに、それも先の問いへの一解答となり得ましょう。しかし、この学生の所感を聞いて、私は若者の中にも身近なところで沖縄戦を実感している人がいる事実を発見しました。つまり、若い世代も過去の戦争を生きた家族から命を受け継ぎ、その尊さを「今」認識しているのです。それを原動力に、学生達が今後さらに「沖縄を国際的平和の島にする」働きを展開することを願いつつ、フィールド研修を終了しました。これは総合教育系にとって初めての試みであった点でチャレンジングな研修でした。それはまた建学の理念教育をさらに発展させてゆくプログラムにもなり、沖縄戦の風化に対するチャレンジにもなればと考えています。

研究助成費獲得による研究活動

沖縄キリスト教学院大学・沖縄キリスト教短期大学では、沖縄キリスト教学院特別研究助成費や外部資金による研究活動が行われています。2010年度の獲得結果は次のとおりです。

〔沖縄キリスト教学院特別研究助成費〕

- 学生NGO活動を通した途上国におけるコミュニティビデオ作成プロジェクト（新垣 誠）
- 本学の建学の精神をテーマとしたドキュメンタリー映像作成及び教材作成（上原 明子）
- 擬二元希土類金属間化合物(R'-R)Co2の輸送特性（内間 清晴）
- 沖縄県の学校教育における『宮良長包音楽』の実践状況と方向性（大山 伸子）

〔科学研究費補助金〕

- 4離島における死生観教育の展開と展望を探る医学教育的研究（近藤 功行）

〔ひらめき☆ときめきサイエンス 〜ようこそ大学の研究室へ〜〕

- 医歯薬学系及び保健・福祉系の立場でみる精神障害者理解の重要性（近藤 功行）

ひらめき☆ときめきサイエンスは、科学研究費補助金による研究成果を社会還元・普及するための事業で、わが国の将来を担う児童・生徒を対象としています。今年度は2005～2006年度に科学研究費補助金を得て研究を行った沖縄キリスト教学院大学の近藤功行教授が、県内の高校生を対象として上記プログラムを実施しました。

〔公益信託 宇流麻学術研究助成基金〕

- 沖縄から発信する英文学研究ネットワークの再構築（浜川 仁）

『三つ星☆オープンキャンパス』

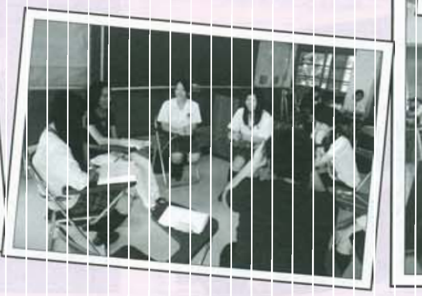
大学へ進学するってどういうこと？　高校とは何が違うの？　大学ではどんな学びが待ってるの？・・・

答えは、私達の三つ星（わざわざ足を運ぶ価値のある）オープンキャンパスで見つけられるでしょう。

本学では、年に4回(6、7、8、12月)、オープンキャンパスを実施しております。チャペルでの大学説明会、先生方と直接話せる入試相談コーナー、キャンパスツアーや在学生とのしゃべり場、体験授業、AO入試対策講座など、充実したプログラムを用意しています。

毎回、在学生ボランティアの活躍が光ります。今年度は、初めてのクリスマスオープンキャンパスを開催しました。クリスマスの喜びを共に分かち合える、これこそ、本学ならではのプログラムでした。

これからも本学の良さをお伝えすると共に、皆様の進路決定のお手伝いが出来るように、入試部一同、全力でサポートさせて頂きたいと思っています。



行　事

Event 1 入学式

2010年4月1日　沖縄キリスト教短期大学（第54回）、沖縄キリスト教学院大学（第7回）、沖縄キリスト教学院大学大学院（第3回）入学式が本学体育館で執り行われました。期待に胸をふくらませ、短期大学221名（英語科110名、保育科111名）、学院大学138名、大学院6名が入学。伊地侃海さん（英語科）、上原あいささん（保育科）、仲里真由美さん（英語コミュニケーション学科）の3名が新入生代表として挨拶を行いました。

また、10月1日に、沖縄キリスト教短期大学秋季入学式が本学チャペルにて執り行われ、新入生3名、転入学2名（英語科）が入学しました。

Event 2 スポーツデー

2010年4月17日（土）学生会・キャンプリーダー主催で新入生歓迎のスポーツデーが行われました。バレーボールやドッジボールがクラス対抗のトーナメント式で行われ、各クラスともお揃いのユニホームを作成し、一致団結！エキサイティングなプレーや応援合戦で盛り上がりました。終了後はバーベキューや「逃走中ゲーム」があり、交流を深めました。

Event 3 新入生オリエンテーションキャンプ

5月12日（水）～14日（金）　●国立沖縄青少年交流の家（渡嘉敷村）

本学の伝統行事であり、名物行事でもある新入生オリエンテーションキャンプが大変な盛り上がりの中、今年度も無事行われました。参加人数は400名を超え、新入生は期待と不安が入り交じる中、渡嘉敷での2泊3日の研修を経験し、大学で学ぶ意義を考えるとともに、仲間との交流を深め、帰る頃には「もう1泊したい！」「参加して良かった！」等の声が口々に聞こえてきました。

◆プログラム

- 金城 重明先生のお話
  「イエスキリストとの出会い」
- 平和学習
  「集団自決跡地碑見学」
- 各科集会
- 海洋研修
- 大学で学ぶとは
- フェローシップアワー

Event 4 全学集会＆七夕祭

2010年7月9日（金）

全学集会テーマを「Let's Enjoy School Life」とし、運転マナーや駐車場のことを中心にみんなで話し合いました。また、卒業生の金城 仁さん（JAおきなわ勤務）をお招きし、自動車保険の必要性、事故時の対応等をお話しいただきました。最後に「一杯の代償」という詩を学生会副会長の仲尾友里さんが朗読し、飲酒運転撲滅について確認しあいました。

夕方からは「七夕祭」が始まり、天候不良のため用意した矢倉は建てられませんでしたが、体育館で個人・団体の特技や出し物が披露され、浴衣姿で埋め尽くされた会場は非常に盛り上がりました。

Event 5 第46回 キリ学祭　＊テーマ＊ Pieces of Peace

2010年11月13日（土）～14日（日）

初日はあいにくの雨。なんとか開会式のバルーン打ち上げはできたものの、あまりにも風雨が強く危険なため、初日のステージは途中で中止となりました。残念ながら期待していた「しおりさんのライブ」も中止。二日目は雨もあがり、初日の鬱憤をはらすべく、盛り上がりました。特にフィナーレではみんなで「You raise me up」を大合唱し、玉城歩キリ学祭実行委員長の感動的な朗読とともに、関わった学生、観客の方たちと涙と感動を分かち合いました。

開催中に募金箱を設置し、NGO団体　ONE LOVEを通じフィリピンのYOGA・FOLPという2つの団体の自立支援活動に35,550円、また、奄美大島・集中豪雨災害復旧のために80,213円の寄付を行いました。

実行委員のみんなお疲れさま！そして、来場された皆さま、ご協力いただいたスポンサー、地域の皆さま、関係者の皆さま、本当にありがとうございました。

「小さな願いが大きな願いとなったキリ学祭」

前学生会長　玉城　歩

本年度も無事に第46回キリ学祭が行えた事を多くの人々に感謝いたします。今回の学祭のテーマは「Pieces of Peace」でした。「平和」意識を大切にし、一人ひとりが深く考えられるような学祭にしたいという願いを持って、学生会・ボランティアリーダーを含めた約100名の実行委員と共に6月から準備を始めました。

今年もまた準備から当日まで、多くの方々に支えられてきました。準備期間では、仲間とのぶつかり合いを通して、仲間の大切さを改めて感じる事が出来ました。残念ながら一日目は、強風と豪雨が重なる悪天候で中止となってしまいましたが、二日目は、フィナーレ「YOU RAISE ME UP」の大合唱を通して、会場の皆様と私たちの心が一つとなり、「平和」への祈りが多くの方々へ届く瞬間を共有することが出来ました。

私たちは今回の学祭で得た事を忘れることなく、これからも平和な世の中を築くために心を一つにしていかなければなりません。その心を忘れることなく次につなげていけるようこれからも頑張っていきますので、皆様には温かく今後の活躍を見守っていてほしいと思います。

キリ学祭に関わった多くの皆様方に心より感謝の気持ちを込めてお礼の言葉とさせていただきます。

本当にありがとうございました。

宗教部 & 沖縄キリスト教平和研究所

ヌチドゥタカラ★サマー聖書キャンプ

2010年8月25日～8月27日（2泊3日）、伊江島と本島中北部を中心に宗教部主催のサマー聖書キャンプが行なわれました。本学短大生4名、四大生4名、理事長、宗教部長、事務職員2名に加え、福岡女学院大学の学生4名、長崎ウエスレヤン大学の学生2名の総勢18名が参加しました。在沖米軍基地の問題や沖縄についての歴史と現実に向き合いながら、神に与えられた命や平和とは何かを考え、分かち合う学びのときをもちました。大学アワーでは、福岡と長崎の紹介や質疑応答等が行なわれ、楽しい交流のときをもちました。

アジア・フレンドシップ・キャンプ in 韓国

2011年2月22日～3月2日（8泊9日）の日程でアジア・フレンドシップ・キャンプが行なわれました。

今年で4回目の開催となります。学生12名と、宗教部長、宗教部職員が、プログラムに参加しました。北と南の停戦ライン（板門店）や、日本軍「慰安婦」被害女性たちが暮らすナヌムの家への訪問、歴史館の見学、ヒャンリン教会の礼拝出席や青年たちとの交流等を行ない、有意義な時間をもちました。歴史・文化の学びと、人々との出会いを通して参加者は自分自身に向き合いながら良い機会を得ることができました。今後の学生生活と将来に有為なものとなることを信じています。

李 玉善氏　証言会

韓国強制100年に際し、元日本軍「慰安婦」の女性たちの住む韓国「ナヌムの家」より李 玉善（イ オクソン）氏を御招きし、11月25日（木）に後期キリスト教講演会、27日（土）に証言会・交流会を開催しました。李 玉善氏は83歳という高齢にも関わらず、証言をするために来沖されました。14歳の時に故郷の釜山で拉致にあい、その後中国の飛行場での強制労働や日本軍の「慰安婦」として性被害にあった自身の経験を涙ながらに証言されました。歴史の事実が明らかなのにも関わらず、現在まで謝罪されずに、心身に深い傷の残る氏の証言は、未来を担う私たちひとりひとりに対して、平和や命の尊厳を考える貴重なメッセージでした。

沖縄キリスト教平和研究所の一つの試み

キリスト教が沖縄という具体的生活の場において何を語ってきたか、戦争という惨劇を経験し、平和を願ってきた同胞と何を共有し、どう関わってきたかを検証するための一つの試みとして連続講座「戦後沖縄における教会の歩みと回顧 — 苦難の中での平和の願い —」を昨年の二月以来計画、実施してきました。後2回でこのシリーズは一応終了します。戦後の厳しい現実を身を以て生きた諸先生のご講演は沖縄のキリスト教の今後に何らかの示唆を与えると確信しています。講演内容は後日出版の予定です。（ウフグスク）

沖縄キリスト教平和研究所・連続講座

戦後の沖縄における教会の歩みと回顧
－苦難の中での平和の願い－

★第12回　3月22日（火）
講師：大城実（沖縄キリスト教平和研究所所長）
★第13回　4月19日（火）
講師：神山繁實（沖縄キリスト教学院理事長）

〈お問合わせ先 沖縄キリスト教平和研究所 TEL:098-946-1279〉

国際平和文化交流センター

地球市民月間～いのちをつなぐアースハーモニー 2010

国際理解教育プログラムとして、2007年度から5～6月の期間に学外団体（沖縄県内のフェアトレードショップ、NGO）と共催しており、今年度で4回目になります。このイベントは、世界で起きている問題に触れ、「私たちができることは何だろう？」と考えるきっかけになることを目的として開催しています。地球に生きるひとりひとりが自分の生活を見つめ直す、そんな小さな変化が世界を変える一歩になると信じているからです。今回は、期間中に上映するドキュメンタリーフィルム「ブルー・ゴールド 狙われた水の真実」に合わせて、「水」をテーマとするパネル展や講演会を開催しました。

★地球市民パネル展 2010 ～ HAPPY SMILE in ASIA ～

（共催：ONE LOVE）5月7日（金）～6月18日（金）

「水や空気のような存在」と例えられるほど、水は私たちにとって身近で当たり前な物質ですが、蛇口をひねればいつでも好きなだけ衛生的な水が手に入る暮らしは、地球上では当たり前のものではありません。

1日に大きなバケツ15杯分の水をポンプで汲み上げる子供たち。不衛生な川の水を生活用水にせざるを得ない地域。水力発電に頼っているため、乾期に入ると断水や停電が1日数十時間にも及ぶ不自由な暮らし。そんな現実が本学の海外研修で訪れたフィリピンとネパールで撮影した写真にも映し出されていました。

★講演会「おきなわ、10の渚の物語」

5月23日（日）

本学サークルWLO（We Love Okinawa）のクリーン活動紹介、そして名和純さん（貝類の専門家）による「貝の渚の物語」の朗読と解説を中心に、沖縄の自然の渚の移り変わりと、そこに生きる小さな貝たちの暮らしに目を向けることができました。会場に展示された300種の貝は渚の貝世界を再現しており、来場者が熱心に見入っていました。

★映画「ブルー・ゴールド　狙われた水の真実」上映会 & トークショー

（NGO・フェアトレード取扱団体等6団体合同イベント、共催：桜坂劇場）6月5日（土）・6日（日）

人間の体の60％を占めるといわれ、私たちの生命を維持するために欠かせない「水」。しかし世界の人口増加を考慮すると、今後は深刻な水不足になると予測されています。映画「ブルー・ゴールド」は、水が黄金と同じぐらいの価値を持つようになり、「石油戦争」から「水戦争」の時代が来ると警告し、水資源をめぐる経済や自然環境に対してより強い意識を向けるよう促していました。

上映前後のトークショーでは、学生が実際に体験した途上国における水事情や、沖縄県内における農業やダム建設の現状等が取り上げられ、様々な側面から「水」について考えることができました。また、会場には国別の1日1人当たりの使用水量や、ダム建設と引き換えに失われた大保川の自然を撮影した写真等、私たちの生活を取りまく水にまつわる資料を展示し、水問題をより身近に感じられるよう工夫しました。

★国際交流プログラム・海外研修

今年度は以下の海外研修等を実施しました。参加した学生たちは交流を通して国際的な視野を広げると同時に、自分自身の文化的背景を再認識していました。

研修名	主な研修先	研修期間	参加学生数
長栄大学交流プログラム	本学	7月11日（日）～7月24日（土）	15人（受入）
台湾研修	台南市	8月30日（月）～9月12日（日）	13人（派遣）
フィリピン研修	マニラ市近郊	8月30日（月）～9月 6日（月）	19人（派遣）
海外幼児教育研修	ネパール（カトマンズ市内）	9月 8日（水）～9月17日（金）	15人（派遣）
Hawaii Study Tour	米国ハワイ州カウアイ島	2月15日（火）～3月 1日（火）	18人（派遣）

世界に笑顔の花を ONE LOVE 活動報告 2010
～フィリピン・ネパール・沖縄～

ONE LOVE は学生主体の NGO です。授業を通して訪れたのをきっかけにフィリピンとネパールでの自立支援活動と、県内では出前授業を通した国際理解教育活動を行っています。去年はフィリピンとネパールで出会った子どもたちの笑顔のカレンダーを作成しました。笑顔の裏にある厳しい現状を伝えるだけではなく、どんな逆行の中でも助け合いながら生き抜く力たくましい力や希望を子どもたちが伝えています。写真の選定やキャプションも学生メンバーで考え自分たちの見てきたことを自分たちの言葉で伝えていきました。

また去る 10 月に名古屋で開かれた生物多様性条約締約国会議（COP10）に、沖縄・生物多様性市民ネットワークのユース部門として参加しました。現在、すべての生き物にとって平等に配分されるべきである水をテーマに、世界で起こっている現状と私たちの繋がりを一緒に考えていくことのできる出前授業の新しい教材作成に取り組んでいます。

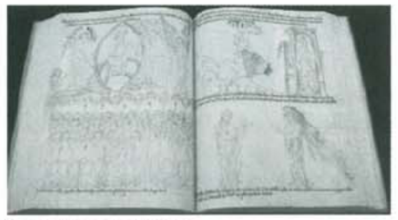
図書館より

宗教改革文献コレクション

平成 22 年度 私立大学等研究設備費等補助金の交付が決定した。（私立大学等研究設備等整備費）

◆宗教改革文献コレクション

Collection of the Corpus Reformatorum and Early Pictorial Bibles. 全 158 冊



Early Pictorial Bible.

D. Martin Luthers Werke.

The Corpus Reformatorum.

聖書フェア

1. 期間：2010 年 12 月 6 日（月）～ 12 月 13 日（月）
2. 場所：沖縄キリスト教学院図書館 “ブラウジングコーナー”
3. 協力：　財団法人 日本聖書協会・沖縄キリスト教書店
4. 展示内容：①各国語の聖書
　②ベッテルハイム聖書及び資料等
　③子ども聖書・絵本等他 本図書館貴重本
　④その他聖書に関する図書及び AV 資料・電子資料等
　⑤パネル展示（聖書が出来上がるまでの工程）

※今回の展示の特徴として沖縄にゆかりの深い、1846 年に来琉したプロテスタント宣教師バーナード・ジャン・ベッテルハイム（伯徳令、Bernard Jean Bettelheim（1811-1870）の『約翰傳福音書[琉球語訳]（復刻本）』・路加傳福音書：[琉球語訳]（復刻本）・他、その他に本図書館所蔵のキリスト教図書貴重本等を展示。

就職関連

秋の進路セミナー

2011.10.27

1 年次と教職員が一体となり、全学的に進路について考えるプログラム。ゲストを招いての基調講演や各学科の先輩達を交えたパネルディスカッションを行いました。359 名の 1 年次が参加しました。

【参加学生の感想】

- 社会人になる厳しさや仕事という責任の重さを知ることができ、とてもいい機会になりました。
- 今やっておいた方がいいことなどを聞き、大学 1 年次で話が聞けて本当に良かったと思います。

就職合宿セミナー

2011.1.15 ～ 1.16

年 1 回 1 泊 2 日の宿泊形式で開催。未内定学生を対象に履歴書の作成及び模擬面接を行い卒業までに内定を獲得することを目的としています。セミナーでは外部講師を招き、履歴書の書き方を指導していただいたり、卒業後を見据え、ハローワークの活用法なども伝えています。15 名（四大 9 名、短大 6 名）の卒業年次の学生が参加しました。

【参加学生の感想】

- 就活の悩みを話して共有することで「自分だけじゃない」と思い又頑張ろうと思えました。

教員・在学生・卒業生の活躍

教員編　第 23 回 JAL 琉球民謡大会 TV 出演

英語コミュニケーション学科　David Ulvog

2010 年の年末、正月恒例の番組「イチャリバチョーデー琉球民謡大会」に出演しました。

人前で歌ったことのない私が琉球民謡を歌うことは本当に無謀な挑戦でした。一月ちょっとという短い期間でなんとか歌えるようにするため、神谷智子先生と入里先生が色々とご指導をして下さいました。また、北原先生の奥様には出演用のかりゆしウェアを仕立てていただきました。

出演当日は、友寄隆乃進君が大応援団を統括して会場全体を盛り上げ、なんと応援部門で優勝いたしました。学生と大学スタッフの絆が応援部門優勝へと結実した感動的な場面でした。

教員・在学生・卒業生の活躍

在学生編

様々な人との出会い

保育科１年　新垣　優美

私は保育士を目指して保育科に入学しました。特に新鮮だったことは、クラスメイトが盲学校では４人だったのが、大学ではとても多くて、授業の時には様々な意見が聞けて、とても楽しいです。
また、一人で受けられない授業や難しい課題がある時には、ボランティアの方にとても助けられています。そして、職員や先生方の配慮、クラスメイトの支えがあり、私は充実した学校生活を送ることができます。授業以外でも、声をかけてくれてとても嬉しいです。本当に感謝しています。これからも保育士を目指して日々の勉強を頑張ります。

自分を信じて…

沖縄タイムス伝統芸能選考会
器楽・太鼓の部　最高賞受賞
保育科１年　山内　詩織

私にとってこの賞を受賞したことは夢のようでした。古典太鼓に出会って６年。格好良く太鼓を打ち鳴らす師匠に憧れ、賞の合格を一つの目標に稽古に励んできました。
稽古中、自分の弱さにぶつかり何度も諦めようと思うこともありましたが、そんな私を支えてくれたのは「努力はあなたを裏切らない、もっと自分に自信をもちなさい。」という師匠の言葉でした。そしてその言葉をお守りに試験に挑み、合格したときは言葉にできない程の嬉しさと支えてくれた師匠、仲間、家族への感謝の気持ちで胸がいっぱいでした。
私は今、保育士を目指し勉強を重ねています。苦しい事や壁にぶつかる事もたくさんあると思いますが、いつでも自分を信じ素敵な保育士になれるよう努力し続けたいです。

出逢いに感謝

ミス・ユニバース・ジャパン沖縄大会
審査員特別賞
英語コミュニケーション学科３年　新垣　梢

昨年、11 月 23 日に行われたミス・ユニバース・ジャパン沖縄大会にて私は、審査員特別賞という栄誉ある賞を頂くことが出来ました。審査員特別賞というのは、本来存在しなかった賞です。この賞を勝ち取ることが出来たのは、決して私一人の力ではありません。この大会との出逢いをきっかけに、本当に沢山の方々との出逢いと、新しい自分自身との出逢いがありました。良きライバルであるファイナリストの仲間達、愛をもって厳しく指導して下さった講師の方々、応援してくれた皆様に感謝しています。物事にひたむきに情熱を注ぐ、これからもこの姿勢を忘れずに過ごしていこうと思います。

優秀賞はやれるだけやってみた努力の賜物です

第六回　名桜大学懸賞作品コンクール
短編小説優秀賞
英語コミュニケーション学科４年　長山　正樹

受賞が決まった時は「賞金がもらえる」（笑）なんて軽い気持ちでしたが、才能が認められたことは本当に嬉しかったですし、これからも書き続けようという想いになりました。
今回の最大の喜びは、受賞がきっかけで多くの人に読んでもらえたことです。
「すごくよかった」「おもしろかった」、その一言を言ってもらえるだけで素直に嬉しかったです。多くの人に言われたその言葉は、どんな賞賛の言葉にも勝る褒め言葉でした。
近い将来、新たな作品をきっと届けます。発表前に読めるかもしれないので、見かけたら気軽に声をかけてください。

ボランティアサークル

出会いに感謝「ありがとう」　：シグマソサエティ

シグマソサエティサークル「Σシグマ」は、奉仕を目的としたボランティアサークルです♪私達は、自分自身が笑顔になれる、人との触れ合いの中で、「ありがとう」という感謝の気持ちを大切にしたいと想いながら活動しています。
主な活動は、月に一度沖縄病院で筋ジストロフィーの方々とのレクリエーション交流や、各施設が行う行事のスタッフボランティアを行っています。今年度からは、活動の幅を広げ、ルーツという学生企業と連携し、他大学との交流を深めながら、更なる地域への貢献にも繋げていきたいと考えています。笑顔を繋ぐボランティア活動をしていきたいです。

「きらきら笑顔を届けたい☆」　：児童文化研究サークル

私たち児童文化研究サークルは、保育園や施設などを中心に人形劇やいろいろな色の手袋を使ったフィンガーアクション、人形達が楽しくダンスを踊るボードビルなどの公演を行っています。今年度は、施設からの公演依頼が多くあり、普段はあまり関わることのできない方々とも交流をすることができ、とてもよい経験ができました。公演をすると子ども達がとても喜んでくれ、きらきらした瞳を見るととても心が暖かくなります。
これからもメンバー全員で心から楽しみ、子ども達や地域の方々に最高の笑顔を届けられるよう日々成長していきたいです。

「 We Love Okinawa 」　：WLO

WLO とは We Love Okinawa という意味で沖縄の自然を愛しクリーン活動を行っているサークルです。沖縄を愛するメンバーが集まり月に一度、海や公園でクリーン活動を行っています。沖縄の海は綺麗なイメージですが、実際は多くのゴミで汚れています。クリーン活動と聞くと汚いと感じる人もいると思いますが、様々な人との出会いや自然との触れ合い等、日常生活の中では体験することが出来ない経験も得られます。沖縄の自然環境に向き合い自分達に出来ることを行いつつゴミの現状を訴え、沖縄の美しい自然を残していけるよう活動しています。

卒業生編

アイデンティティを求めて

保育科 26 期　内間（うちま）亮子（りょうこ）（旧姓：大城）

沖縄キリスト教短期大学での２ヵ年は、私にとって自分のアイデンティティを形成していく貴重な期間でした。大学に入ってまず学んだのは、自分は何者かということ、それを模索し続けること、そのために友だちと群れずに一人で考えること、まず行動に移してみることでした。たった２ヵ年ではありましたが、学業の他にもサークルにボランティア、そして学園祭ではポスターも描かせてもらい大変充実した毎日でした。卒業後幼稚園に数年努めた後、自分の可能性とモノづくりの夢を目指して東京へ飛び出したのが今に繋がっています。東京でデザインを学び、働いた後、沖縄初のデザイン専門学校へ教務として勤めました。長年勤めているうちに卒業生や若いデザイナー・クリエイターからの相談を受けるようになり、彼らの可能性を広げ、あらたなモノづくりをする人々との出会いの場として現在の沖縄クリエイティブギャラリーの流れができてきました。ギャラリーの中でクリエイティブな活動をする若い人たちの展示や販売のお手伝いをしながら、私自身はデザインコーディネーターとして県内を走り回っています。数年前から沖縄の伝統工芸を現代のニーズに合わせて商品開発する活動に関わったことから、沖縄のデザイン文化やそのための人材育成を考えながら、小さな一歩ではありますが前へ向かって進んでいます。デザインコーディネイトもデザイン工芸の商品開発もまだまだ県内では認知が低く、パイオニアとしての暗中模索の毎日です。初めてのこと、誰もやっていないことを開拓していくのは大変骨の折れる仕事です。しかし、今の自分を創ってくれたのは、両親はもちろん、沖縄キリスト教短期大学で出会えた先生や友人、その自由で温かく人間味溢れる学風の中で培ったアイデンティティだったと思い、25 年経った今でも感謝の思いは絶えません。

【略　歴】

1985.3	沖縄キリスト教短期大学卒業
1985.4 ～ 1987.3	真栄原カトリック幼稚園勤務
1987.4 ～ 1989.3	東京ＹＭＣＡデザイン研究所卒業
1989.4 ～ 1992.2	プラス株式会社 オフィス環境研究所勤務
1992.2 ～ 2005.3	専修学校 インターナショナルデザインアカデミー勤務
2006.5 ～ 2009.8	沖縄デザインセンターゼロを設立
2010.10 ～	(有)産創研・沖縄クリエイティブギャラリー勤務

ギャラリー運営の中で人材育成を、デザインコーディネーターとして沖縄のデザイン文化に取り組む

新任教職員メッセージ

Nice to meet you.

見識・実践力のある学生の創出にチャレンジ

英語コミュニケーション学科　北原 秋一

私は通産省・経済企画庁・国際価格構造研究所などの「官」での経済調査創設業務・国際経済分析・政策立案業務等、「産」として沖縄銀行・経済研究所・ＩＳＯ監査を通して調査・金融マーケティング・会社経営・経営コンサルタント業務を行い、「学」として琉球大学・立命館アジア太平洋大学などで経済関係の教育に従事してきました。こうした「官」「産」「学」の経験等を生かすべく、英語コミュニケーションのコア部分の一つであるビジネス関連の理論実務を体系的に教示することで見識と実践力ある学生の輩出にチャレンジする所存です。

1つひとつを丁寧に

英語コミュニケーション学科　徳本 貴子

キリスト教学院大学で講師として働く機会をいただき、10カ月が過ぎました。支えてくださっているすべての方々に深く感謝いたします。

毎日の講義をとおして、学生の能力がこれほどまでに豊かで柔軟で、とても繊細なものであるということに驚かされてきました。学生一人ひとりが大学生活を通して、現実の社会を分析し解説できる能力と、達成感、そして自己信頼を育むことができれば、講義を担当するものとしてこれ以上の喜びはありません。学生が伸び伸びと成長できる場を提供できるよう、関係するすべての方々から学びながら一つひとつ丁寧に取り組んでいきたいと思います。どうぞ、よろしくお願いいたします。

よろしくお願いします。

沖縄キリスト教学院事務局長　与那覇 明弘

2010年4月1日付けで事務局長を拝命しました。（前職は名護市辺野古に在る沖縄工業高等専門学校（通称：沖縄高専）です。）採用の辞令を受けた日は入学式で、讃美歌に始まり、入学生代表の挨拶が英語でなされ、スラッシャー学長挨拶の通訳を在学生が務めるなど、これまで経験した大学に無い内容で衝撃的でした。

月曜礼拝や会議の前のお祈りなどは「建学の精神」を再認識させるものとして受け止め、日々の業務に取り組んでいるところです。

本学はいろんな課題が山積していますが、在学生から「本学に来て良かった。」卒業生から「キリ短、キリ学を誇りに思う。」の評価が得られるよう教職員一丸となって取り組んでいけたらと思います。微力ながら一生懸命頑張る所存ですので、よろしくお願いします。

ご挨拶

総務課 主任　山川 常次

こんにちは、事務局総務課で設備管理及び環境衛生管理業務を担当しています山川常次と申します。西原キャンパス移転時の1989年10月から本学院にお世話になり、2010年4月1日をもって専任職員として採用していただきました。心地よい緊張感のもと決意を新たにしております。これまでの多くの方々の支えに感謝し、今後も初心を忘れず業務に精励し、最善を尽くしていきますので、よろしくお願いいたします。

感　謝

宗教部 書記　神山 真美

2010年4月に事務職員として採用されました神山真美と申します。本学保育科の49期生（2007年卒業）です。学生生活での経験が、現在、宗教部の事務職員としての働きに活かされています。聖書の言葉の中に、「私があなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。（ヨハネによる福音書13章34節）」という一節があります。神の愛を土台に、祈りによって建てられた特別な沖縄キリスト教学院の体の一部として、学生をはじめ、社会に仕えていける恵みを心から感謝しております。祈りつつがんばります。どうぞよろしくお願いいたします。

退職教職員メッセージ

See you again.

沖縄キリスト教学院を去るにあたって

英語コミュニケーション学科教授　山里 惠子

数日前、ある方から車椅子の先生についての問い合わせがあった。紛れも無く高嶺豊先生のことだと思った。その瞬間、首里キャンパス時代の諸々の出来事が思い出された。私は、あれから40年、沖縄キリスト教学院で過ごしてきたことになる。出会った学生や同僚のことを、感謝を込めて全て書きたいのだが、２・３だけ最近の出来事との関連で綴りたい。

首里キャンパス時代の学生は、とてもユニークであった。高嶺豊さんは、手動用車での通学であった。彼は、級友達とよくドライブに出掛けた。一方、キャンパスは凸凹で、車から降りると大変な状況が待っていた。校舎にはエレベーターが無い。授業は、時には3階で受けなければならない。男子学生が、さっと協力した。彼らの合言葉は、「豊には負けたくない」であった。この素敵な雰囲気が、学院の学生のイメージとなった。

教職員は、牧師先生方が中心になって、「沖縄キリスト教短期大学は何所に立つのか？」と話し合っていた。ノン・クリスチャンの教職員の中に「首里の丘」ではありませんかと答える者もいた。互いに茶化しあいながらも、いつも聖書の教えが感じられた。それに、本学院の創設者であられる仲里朝章先生は、その頃ご健在で、あの首里の丘によくおいでになった。仲里先生を知らない学生たちは、「あのお爺さんよく来るよね」と無邪気に微笑んでいた。同僚達は、「今日もお見えになっていたよ」と話し始め、教育論へとエスカレートした。比較する大学はハーバードである。とても意識の高い先輩方であった。

西原キャンパスでの大きな出来事に、Michigan State University との姉妹校（準姉妹校）締結がある。当時の学長原喜美先生は、短大生の学ぶ意欲を掻き立てる名手であった。MSU では、学生たちは、正規のクラスに Sit-in する事ができた。ある学生の希望でオーケストラの授業を一緒に受けた。彼女は、現在、中学校の英語の教師をしている。先日、偶然に再会し、思い出を共有した。

沖縄キリスト教学院大学では、三期生が巣立った。卒業生の一人が、半年後にやってきて、月曜礼拝の同時通訳をさせて欲しいとリクエストした。本学での学びに愛着を感じているようであった。また、大学院が誕生し、OCI は、教育とアカデミズムの担い手となった。大学院にかつての短大生が入学し、共に学びあう事ができた。感無量である。

「豊には負けたくない」と言いつつ奉仕と勉学に一生懸命だった学生たち、「OCJC はどこに立つのか？」と教育談義をした教職員、学生たちの目を海外に向けさせた人たち、そのような雰囲気が、私の知るこの学院の伝統である。四大と大学院においては、この伝統を受け継いで欲しいと願いつつ、更なる発展を期待している。

退職の辞

英語コミュニケーション学科教授　名嘉山 興武

思いがけず退職教職員のメッセージを書くことになりました。

38年間勤めた高等学校の現場・教育行政をリタイヤし、やっと肩の荷を下ろして悠々自適の生活をと思っていた矢先、四年制大学の完成年度を迎えた本学の「教職課程」の一員としての声が掛かり、お世話になりました。

「或教授の退職の辞」（西田幾太郎）の弁を借りて述べれば「私の何十年の公生涯も極めて簡単なもので、その前半の22年間は黒板を前にして坐し、その後半の42年間は黒板を後ろに立った。」と言うことです。まさしく黒板に向かって一回転をなしたことに尽きます。その上、将来黒板を後ろにして立つであろう本学の「教師の卵」である学生と、黒板を媒体に「共に学んだ」のですから不思議な縁を感じます。

まして「教育は人なり、国家の計は人を樹うるに如くはなし」という使命感をもって仕事に打ち込める学生を育てる営みに関われたことは誇りにさえ思えます。また、本学の建学の精神に触れることによって、これまで空念仏のように自分の中で唱えてきた「全人教育」という教育の淵源、あるべき姿は何かを本学のキャンパスで学ばせて貰いました。

在職四年間、何もお役に立てませんでしたが本学の学生、教職員の方々のサポートで一応曲がりなりにも無難に勤めることが出来たことを心から感謝します。大学も認証評価を受けこれから変革し、来たるべき時代の要請に応える大学として発展することを期待しております。結びに一つ願望をお許し願えれば、私は常々「教員養成は大学の『総合力』による」という信念があり本学ほど、建学の精神、特色あるカリキュラム、人材等々からして「教員養成に適した環境」はないと確信しています。どうぞ今後とも「教職課程」に理解とご支援を賜りたく思います。

退職教職員メッセージ

See you again.

「キリスト教主義大学」に仕えた38年間を振り返って —すべてに感謝—

図書課　課長 宮元　和子

本学院に私が就職したのは、1973年4月1日である。とても緊張して面接に臨んだことは今でも忘れられない。面接人が第5代高等弁務官就任式で、勇気ある祈祷を捧げて世界的に名を馳せた、平良修キリ短第2代学長その人であったからである。当時はワープロもパソコンもない時代で、和文タイプのできる人が重宝されていた。幸い、私は和文タイプも英文タイプも両方できるということで採用されたが、採用時に平良学長は建学の精神について解説してくださった。

あれから38年の歳月が経過し、実に多くのことを経験し、学習させていただいた。おかげで、今日まで生きてこられたのだと思う。感謝あるのみである。

まず、首里キャンパス時代の思い出は月曜礼拝に象徴されるが、あの当時は教職員や学生たち、全員で月曜礼拝や学内の諸行事に参加していた。キャンパスに集う人みなが心を一つにして諸行事に参画していたと思う。たとえば、ノンクリスチャンの学生や教職員も月曜礼拝に出席して聖書を学んだり、建学の精神を再確認したりしていたように思う。当時、全学生数350人ほどの小さい大学であったが、学生も教職員もとても活気に満ち溢れていて、沖縄の高等教育機関として重要な役割を担っているという自覚と風格があった。

西原キャンパス移転時には、私は「移転準備室」に配置された。大城実第4代学長兼第6代理事長を先頭に教職員が一丸となってキャンパス移転を成功させた。募金活動に教職員がペアで卒業生を訪問したのも懐かしい思い出である。

西原キャンパスでの発展は加速し、2004年4月に四大設置、更なる飛躍を遂げて2008年4月には大学院が開学した。かつての小さな大学では想像もつかなかったが、まさに全教職員や関係者各位の叡智の結集の賜物である。

50周年の記念すべき年に、「沖縄キリスト教学院創立50周年記念誌」に編集員として関わる事ができた事は感慨無量であり、「記念誌」を通して本学の歴史を編集員一同で形にできた事を誇りに思う。また、ご協力いただいた関係者各位には感謝に堪えない。

最後に、僭越ですが、本学が21世紀の知的基盤としての大学のさらなる飛躍・発展のために、教職員一同が「互いに支えあう者となる」ようにキリスト教主義大学としての「建学の精神」を尊守し、励まれる事を切に願います。

これまで私を支えてくださいました教職員のみなさま、学生諸君、ならびに関係者各位に厚く厚くお礼を申し上げます。神様の豊かな祝福の下、沖縄キリスト教学院の益々のご発展と皆様方ご一同のご健勝を祈念いたします。

2010年度人事（2010年4月1日～2011年3月31日）

◆教育管理職

【任期：～2011年3月31日】
- 人文学部長　山里 惠子（英語コミュニケーション学科教授）
- 英語コミュニケーション学科長　伊佐 雅子（英語コミュニケーション学科教授）
- 保育科長　川西 康裕（保育科教授）
- 英語科長　城間 仙子（英語科准教授、短期大学部長）

【任期：～2012年3月31日】
- 宗教部長　金　永秀（英語コミュニケーション学科教授）
- 短期大学部長　城間 仙子（英語科准教授）
- 教学部長　山城 眞紀子（保育科教授）
- 入試部長　上原 明子（総合教育系教授）
- 図書館長　内間 清晴（総合教育系教授）
- キャリア開発部長　高崎 正名（英語コミュニケーション学科教授）
- キャリア開発副部長　A. David Ulvog（英語コミュニケーション学科講師）
- 国際平和文化交流センター長　新垣　誠（英語コミュニケーション学科准教授）
- 大学院異文化コミュニケーション学研究科長　伊佐 雅子（英語コミュニケーション学科教授）

◆沖縄キリスト教平和研究所

- 所　長　大城 実（理事）（任期：2010年6月1日～2012年3月31日）

◆沖縄キリスト教学院大学

【採用（4月1日付け）】
- 徳本 貴子　講師
- 北原 秋一　特任教授

【昇任（4月1日付け）】
- Daniel S. Broudy　教授

【退職（3月31日付け）】
- 山里 惠子　教授
- 名嘉山 興武　教授

◆沖縄キリスト教短期大学

【昇任（4月1日付け）】
- 照屋 建太　准教授（保育科）

【退職（3月31日付け）】
- 前里 光盛　教授（英語科）

◆事務職員

【採用（4月1日付け）】
- 与那覇 明弘　事務局長
- 山川 常次　主任
- 神山 真美　書記

【昇任（9月1日付け）】
- 渡慶次 智子　入試課長（入試課主任・課長代行）

【異動（4月1日付け）】
- 松田 道子　図書課主任（キャリア開発課主任）（9月1日付け）
- 城間　勉　キャリア開発部付主任（企画推進課主任）

【退職（3月31日付け）】
- 宮元和子　図書課長

学報第57号（2011年3月8日）

同窓会情報

同窓会の会員数は、1万2千名余です。学生の皆さんは卒業と同時に新規会員となりますので、毎年凡そ320名の規模で成長しています。

同窓会の目的は会員相互の親睦を図りつつ学院及び在学生を支援することにあります。会員同士が母校への思いを込めて知恵と力を出し合っていけば大きな力となることを、これまでの会活動を通して経験してきました。しかし、会活動を充実させ更なる活性化を目指すために若い会員層の参加はとても重要です。本会の事業計画の一つに学生会との交流があります。同窓会の活動をお知らせし、学生の意見・声を聞き、そして卒業後は学院の発展のために共に協力しあう会員となってもらうためです。2010年度は2回ほど交流の機会を持ちました。まもなく学院を巣立つ前学生会役員の皆さんが二度の交流会で見せた積極性と堂々たる発言力に先輩会員たちは大喜びです。早速、2名の方が期代表評議員を申し出てくださいました。同窓会・学生会・学院との交流プログラムが今後の会活動により良く反映されていくことが期待されます。

年明けの1月、大学側から緊急の要請がありました。3月に県外就職活動を行う学生（現短大1年生・四大3年生）への財政的支援の要請でした。雇用環境がこれまでにない厳しい状況であることから同窓会としても看過できないとして急きょ三役会を開き20万円の寄付を決定しました。

<お願い>　同窓会ではデータによる会員名簿の整備を進めています。
①住所　②氏名　③電話番号　④勤務先　の変更等をお知らせください。
◆連絡先：同窓会事務局　電話 /FAX 098-946-1280
E-mail dousoukai@ocjc.ac.jp

寄附感謝報告

＊寄付へのご協力ありがとうございました。ここに感謝をもってご報告させていただきます。寄付指定(2010年1月1日～12月31日まで)

個人（27件 / ¥8,108,001）　団体（32件 / ¥16,962,420）　合計（59件 / ¥25,070,421）

四年制大学		
宗教団体	1	5,000
合計	1	5,000

施設設備資金		
父母	1	50,000
同窓 / 在学生	3	640,001
一般	3	5,055,000
団体	2	150,000
宗教	2	36,000
宗教団体	6	162,420
学校関係者	1	50,000
教職員	3	227,000
同窓会	1	1,650,000
後援会	1	5,315,000
合計	23	13,335,421

奨学金		
一般	1	100,000
企業	9	600,000
団体	1	100,000
宗教団体	4	550,000
学校関係者	4	180,000
教職員	4	1,200,000
同窓会	1	850,000
後援会	1	7,010,000
合計	25	10,590,000

学生会活動援助費		
同窓会	1	300,000
後援会	1	200,000
合計	2	500,000

沖縄キリスト教平和研究所		
宗教団体	3	70,000
合計	3	70,000

国際交流		
教職員	1	70,000
合計	1	70,000

その他		
父母	1	30,000
宗教	1	150,000
教職員	2	320,000
合計	4	500,000

沖縄キリスト教学院　2011年度 前期公開講座募集要項

講座名（講師名）	開設予定日 / 時間	対象（定員）
ハングル講座　初級 金　永秀（本大学教授）	4/18(月)～6/20(月) 10回 19:00～20:30	初めてハングルを学ぶ方 （12 人以上）
小学校・児童英語指導者養成講座（初級コース） -Communicative Childcare English の基礎 - 児童英語発達段階に沿った指導の展開 山里 米子（NPO 法人沖縄児童英語研究会理事長）	4/19(火)～6/28(火) 10回 19:00～20:30	一般社会人、大学生、保育士、幼稚園教諭、小中学校教諭、児童英語講師（12 人以上）
誰でもわかる！ 現代アート入門講座Ⅰ 吉村　壮明（本短期大学准教授）	4/20(水)～7/6(水) 10回 19:00～20:30	一般社会人、学生（20 名）
脳を活性化！　楽しく頭の良くなるラテンリズム 城間　里佳（ラテンバンドカチンバ 1551）本短期大学 38 期生	4/20(水)～7/6(水) 10回 19:00～20:30	一般社会人、学生、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭、介護福祉士（100名）
教会音楽合唱講座 神谷　智子（本短期大学非常勤講師）	4/22(金)～7/8(金) 10回 19:00～20:30	一般社会人、学生（15 名）
カウンセリング：理論と面接技法 渡久地　政順 （日本カウンセリング学会認定カウンセラー・本短期大学名誉教授）	4/22(金)～7/8(金) 10回 19:00～20:30	一般社会人（40 名）

1. 申込方法：1) お電話でお申込みください。　電話番号　098-946-1240（総務課）
2) FAX でお申込みの方は、HP 掲載の申込書をご利用になり、氏名等を記入し、下記宛に送信してください。　FAX：098-946-1241
※ E-mail でお申込の方は、HP 掲載の申込書をダウンロード後、氏名等を記入し、下記宛に 添付して送信して下さい。
E-mail koukaiko-za@ocjc.ac.jp
◎定員に達し次第締め切らせていただきます。
2．受付期間：3/14（月）～ 3/31（木）まで ※時間 09：00 ～ 17：00（土日除く）
3．受講費用：〈10 回〉一般 6,200 円 / 割引 3,200 円
◎本学関係者・在学・卒業生、西原町在住者・勤務者、学生の方は割引あり。
◎一旦納入された受講料は払い戻しできません。
4．納 入 先：各講座開講当日に総務課窓口で納入してください。（18：00 ～ 18：50）
5．開講条件：受講者の人数が少ないクラスは閉講することがあります。
この場合受講料は、お返しいたします 。
6．日　　程：諸事情により、講座日程が変更になる場合があります。
講座が開始されましたら、担当講師にご確認下さい。
7．詳　　細：詳細は、本学のホームページをご覧下さい。http://www.ocjc.ac.jp

2009年度決算報告 2009年4月1日から2010年3月31日まで

資金収支計算書

（単位：円）

資金支出の部		資金収入の部	
科　目	金　額	科　目	金　額
人件費支出	597,326,350	学生納付金収入	803,850,158
教育研究経費支出	205,510,641	手数料収入	20,778,500
管理経費支出	53,914,394	寄付金収入	33,356,318
借入金等利息支出	4,852,434	補助金収入	185,154,598
借入金等返済支出	36,100,000	資産運用収入	10,239,607
施設関係支出	78,156,830	事業収入	3,309,400
設備関係支出	38,744,503	雑収入	26,806,738
資産運用支出	60,006,045	前受金収入	394,684,870
その他の支出	40,620,709	その他の収入	94,461,446
予備費			
資金支出調整勘定	△ 37,603,285	資金収入調整勘定	△ 413,895,958
次年度繰越支払資金	1,190,094,940	前年度繰越支払資金	1,108,977,884
支出の部合計	2,267,723,561	収入の部合計	2,267,723,561

消費収支計算書

（単位：円）

消費支出の部		消費収入の部	
科　目	金　額	科　目	金　額
人件費	595,421,465	学生納付金	803,850,158
教育研究経費	293,651,802	手数料	20,778,500
管理経費	61,442,307	寄付金	33,924,324
借入金等利息	4,852,434	補助金	185,154,598
資産処分差額	58,376,450	資産運用収入	10,239,607
徴収不能額引当金繰入額	826,000	事業収入	3,309,400
予備費		雑収入	26,806,738
消費支出の部合計	1,014,570,458	帰属収入合計	1,084,063,325
当年度消費支出超過額	29,547,637	基本金組入額	△ 99,040,504
前年度繰越消費支出超過額	180,947,615		
翌年度繰越消費支出超過額	210,495,252	消費収入の部合計	985,022,821

貸借対照表

（単位：円）

資産の部		負債の部	
科　目	金　額	科　目	金　額
固定資産	3,309,087,486	固定負債	418,429,799
有形固定資産	3,032,431,121	流動負債	479,546,871
土地	943,772,604	負債の部合計	897,976,670
建物	1,335,002,606	第１号　基本金	3,720,452,481
その他の有形固定資産	753,655,911	第２号　基本金	20,000,000
その他の固定資産	276,656,365	第３号　基本金	30,000,000
流動資産	1,215,846,413	第４号　基本金	67,000,000
現金預金	1,190,094,940	基本金の部合計	3,837,452,481
その他の流動資産	25,751,473	翌年度繰越消費支出超過額	△ 210,495,252
資産の部合計	4,524,933,899	負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	4,524,933,899

2009 年度決算について報告いたします。

計算書類は、文部省令「学校法人会計基準」に基づいて作成されており、資金収支計算書は、当該会計年度の研究及びその他諸活動に使用したすべての資金収支の内容等を明らかにしたものです。

消費収支計算書は、当該会計年度の消費収支内容及び均衡の状態を示し、学校法人の経営状態を明らかにしたものです。

貸借対照表は、当該会計年度決算時点における財政状態を明らかにしたものです。

編集後記

暖かな日が続いて、春の草花が咲き始めています。今号の学報はいかがでしたか？学報作成に携わる中、先生方の教育活動や取り組み、活躍する在学生や卒業生を知ることが出来て、良い経験になりました。この学報を通して学外にも本学の良さを発信できたら嬉しいです。

最後になりましたが、ご協力頂いた皆さま、本当にありがとうございました。（大田）